日本体育・スポーツ・健康学会
若手の会

vol.111
2026.11.01

若手研究者コラムリレー

白石 翔（しらいし しょう）

プロフィール

富山大学学術研究部教育学系　講師
日本体育・スポーツ・健康学会の専門領域：体育社会学、体育科教育学

広島県尾道市出身
2013年　岡山大学大学院教育学研究科教科教育学専攻　修了
2013年から公立小学校教諭、2018年から環太平洋大学助教、講師を経て
2025年から現職

2025年度から若手研究委員（企画検討グループ）として、シンポジウムやセミナーの準備に関わらせて頂いています。よろしくお願いします。
専門競技：硬式野球
E-mail:sho.shiraishi3@gmail.com



世界各国の先生方と、フィンランド発祥のスポーツ『ペサパッロ』を楽しみました（左下が筆者）

わたしの研究

体育・スポーツをめぐる合意形成

体育やスポーツでは、私たちは意外なほど多くのことを、その場で調整しながら活動しています。「今のはアウト？」「次はこうしよう」と言葉で相談するだけでなく、相手の動きを待つ、位置を変える、ボールを渡すといった身体的なやり取りもあります。私は、こうした言語的・身体的相互行為に着目し、人々が違いをどのように表し、調整し、共同の活動を成立させていくのかを研究しています。合意形成を「意見を一つにまとめること」だけでなく、違いを抱えたまま共に活動できる関係をつくる営みとして捉え直したいと考えています。

誰もが夢中になれる場を目指して

子どもたちが夢中になれる場は、どのようにつくることができるのでしょうか。私は、学校現場の先生方や他大学の研究者とともに、夢中になれる授業について共同研究を進めています。特に、運動の得意・不得意にかかわらず、子どもたちの挑戦や試行錯誤が、いかなる条件のもとで生まれるのかに関心があります。スポーツの目標やルール、活動の条件などを子どもの姿に応じて調整し、学習経験がどう変わるのかを授業を通して検討しています。既存のスポーツに子どもを合わせるのではなく、スポーツを子どもに合わせる。そうした視点から、誰もが夢中になれる場のあり方を探究しています

必読

わたしの渾身の論文・書籍・記事

白石翔，原祐一（2020）「体育授業における合意形成をめぐる相互行為：アコモデーションとコンセンサスの相違から」日本教科教育学会誌，42巻4号pp.51-62.
白石翔，原祐一（2023）「甲子園球児にとっての儀礼：球児が高校生に戻るために」年報体育社会学，4巻pp.83-95.
白石翔ほか（2024）「低学年児童が遊び方を工夫する契機：小学校2年生におけるマットを使った運動遊びの実践から」日本教科教育学会誌，47巻1号pp.43-55.

（なんでも帳）問いもボールも

小学校教員を経て大学教員となり、現在は富山で研究を続けています。振り返ってみると、私の研究はいつも誰かとの出会いや対話から生まれてきました。学校現場の先生方と授業について語り合ったり、研究仲間と議論を重ねたりする中で、自分一人では思いつかなかった問いや考え方に出会うことがあります。研究とは、一人で答えを見つける営みであると同時に、他者とともに新しい問いを生み出していく営みでもあるのだと思います。

そんな私ですが、最近は少し無理をしてでも時間をつくり、テニスを楽しむようになりました。初心者の私のお相手をしてくださるのは、専門分野の異なる、すでにご退職された80歳の大学の大先輩方です。人数が揃えばゲームを始め、時間が来れば終わる。年齢も経験も大きく異なりますが、コートに立てば一緒にボールを追いかけています。そんなシンプルな時間が、私にとって大切な楽しみになっています。研究もテニスも、一人ではできない。これからも、人とのつながりを大切にしながら、どちらも楽しんでいきたいと思っています。



大学構内のテニスコート。晴れた日には立山連峰を望むことができます。

日本体育・スポーツ・健康学会 若手の会からのお知らせ

2018年8月に日本体育・スポーツ・健康学会若手の会が発足しました！→ メーリングリスト登録フォーム:
https://goo.gl/forms/zGMPdPq5fY3kcB5q2
学会大会、研究会等の開催や報告者募集に関する案内、公募や助成金情報等に関する情報提供を配信予定です。皆様からも、メーリングリストで周知したい情報がありましたら、下記までご連絡ください。
taiikugakkaiwakate@gmail.com